

## 第5回 外国人の受入れに関する委員会開催

2021年11月10日(水) 15:00~17:00 会場(東京都中央区京橋1-10-7 KPP八重洲ビル)&オンライン開催

第5回外国人の受入れに関する委員会を開催し、今年度の活動進捗および今後の活動計画について報告・議論を行いました。

今回の委員会より三菱食品株式会社の森山相談役に代わって新座長として就任された日本水産株式会社代表取締役社長の浜田座長の進行の下、「教育」「就労」「基本指針」それぞれにおける「目指したい姿(社会像)」やその実現に向けた「具体的対応策」などの活動方針案が掲示されるとともに、今後さらに課題をフォーカスし、より実践的な活動を検討していくことが確認されました。

また、コロナ禍の影響で春の第4回委員会まで完全オンライン開催となっていた本委員会ですが、2年ぶりに会場を設けての開催となり、会場及びオンラインにて活発な意見交換がなされました。



▲浜田座長 (日本水産株式会社 代表取締役社長)



▲会場の様子

### 【出席者からのご意見(一部抜粋)】

- 法律を遵守して外国人労働者を受入れていても国際的な人権団体からは依然として非難されることもあり、個社として対応することに苦慮している。生団連では一つの企業ではできないことを協力して進めてもらえればと思う。
- 第三者機関による送り出し機関と監理団体の監督・認証制度は重要だと思う。また、ここへ受入れ企業の認証も検討して加えたほうがよい。
- 外国ルーツを持つ子どもの教育においては、言語教育だけでなく、日本社会に馴染むためのカリキュラムも講じていく必要がある。また、学校教育のKPIでは高校卒業だけでなく、大学及び専門学校への進学率も計測すべき。
- 親の都合で来日した子どもが多く、決して学習意欲も高いわけではない。そうした外国ルーツの子どもたちにとって、職業的な訓練や見学は学習の大きなモチベーションになると感じているので、機会があれば協力をお願いしたい。

## 新入会員 北海道上川郡東川町を訪問しました

全国で初めて自治体として日本語学校を開校した北海道東川町。生団連は2019年にも外国人受入れの取り組みについて取材しておりましたが、この度、東川町として生団連へご入会いただきましたので、改めてお話を伺いました。

### ■日本語学校を入口とした循環型の国際交流

東川町にはおよそ400人弱の外国人が生活しており、その内の約半数は留学生です。東川町立日本語学校はそうした留学生にとっての日本への入り口であり、東川町としてその出口戦略を丁寧に描きサポートすることで、卒業生を国内外への企業や学校へ繋ぐといった循環型の国際交流を実現させています。

東川町立日本語学校にある多文化共生室では外国人の国際交流員も含めたスタッフが常駐し、外国人の立場に寄り添った相談窓口・サポート体制が提供されています。地域住民との交流イベントを開催されており、外国人留学生は日本文化・マインドを学ぶと同時に、地域のシニアや学校生徒たちへ自国文化を教えながら交流することが出来るようになっています。

### ■魅力ある町文化の発信

東川町は地域が一体となって外国人を受入れる体制を整備するとともに、「写真の町」として交流イベントも実施し、広く町文化を発信しています。また、外国人の関心が高いというアイヌ文化を主題とした映画の公開も予定されています。魅力ある町としての情報発信と、町での生活サポート及び将来のキャリア支援、こういった一体的な取り組みが地域活性化につながっているということを実感しました。



▲松岡町長(左から二人目)と東川町の皆様



▲東川町立日本語学校 多文化共生室の外観



▲東川町立日本語学校の外観



▲多文化共生室の様子 気軽に相談ができる